

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年12月2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474100298		
法人名	尾道市		
事業所名	公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」		
所在地	広島県尾道市御調町高尾1348番地6 (電話) 0848-76-2569		
自己評価作成日	令和2年10月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474100298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」は認知症高齢者が、家庭的な環境のもと、家族とのつながりや住み慣れた環境での生活を継続できるよう支援することにより、心身機能と生活機能の維持回復と向上を目指しています。職員の質の向上が認知症高齢者の生活の質の向上につながる事を目指し公立みつぎ総合病院を中心とした施設と連携をとり、様々な研修を受講し職員のスキルアップにつなげています。「かえで」の理念を実践するために年度初めには職員の行動指針を作成し定期的にモニタリングを行うことで、利用者を中心としたケアの実践を重視した運営を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」「本人を共に支えあう家族との関係」に深化が見られる。即ち事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが現在のコロナ禍による面会制限下の中、家族の要望に基づき事業所での窓越し面会が実現し利用者の顔を見て喜ぶ家族の姿があった。今年度は2回の実施で各20名以上の家族参加があり、年度内にあと3回の実施を予定している。又、携帯電話からスマホに替えてのオンライン面会で再会できた例もあった。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」に深化が見られる。即ち利用者の理解できない所で外出制限により生活空間が狭まっているが、それに対し例年の花見ドライブに替えて中庭で花見弁当を楽しみ、敬老会の卒寿の祝いにおはぎ作りで気分転換等、代替サービスの工夫により新たな生活作りに取り組んでいる。
--

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、始業前に理念を唱和し日々実践出来るように取り組んでいる。また、年度始めには、理念の中の言葉を深く掘り下げ、ユニット単位での目標をたてている。目標と、達成するための行動指針を各ユニットに掲示し、毎月モニタリングをしている。	開設時に策定された事業所理念を毎日唱和しケア実践上の原点として確認している。その達成の為に毎年職員の集団発想で各ユニット目標・行動指針を設定・掲示している。それに基づき各職員も個人目標を策定し「個人目標モニタリング票」で毎月自己評価すると共に年度末の職員会議でユニット目標の振り返りを行う中で理念の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、利用者の地域行事への参加は見合わせている。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などの地域行事には職員のみで参加し地域と継続した関係を築けるようにしている。	現在はコロナ禍による外出自粛中だが、本来は日頃から近隣への散歩・買い物や初詣・花見・折り鶴献納等の季節行事で交流している。母体総合施設主催のほほえみ祭等も含め、事業所には多彩なボランティア・地域住民の参加等、相互交流もある。更に地域中学生の職場体験、保育園児との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2カ月に1回の運営推進会議を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に書面会議とし資料を配布している。	最近の会議はコロナ禍による自粛で書面による事前照会となったが、本来は定期的に開催され、地域住民・警察署職員・民生委員等、多職種が参加している。会議では事業所の活動報告・意見交換が行われ、地域の認知症高齢者への対応の仕方を助言した例がある。不参加家族には議事録送付を予定している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加を依頼している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の開催は見送っているが、会議資料を配布し「かえで」の運営や取り組みを伝えている。	コロナ禍以前は市町担当者等が運営推進会議に参加、現在は会議資料を配布して情報共有を図っている。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の虐待・集団指導等の研修会への参加や医療介護連携会議他への出席を通して地域の関係職種と共に協力関係の構築を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。日中は玄関を施錠せずセンサーで見守りをしたり、赤外線離床センサー等を設置している。法人内でケアの質向上委員会を毎月開催して事例検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要のある人には支援している。権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明を行い理解を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。	家族とは面会・計画更新時・電話連絡時・年2回の家族会等で意見を把握し、申し送りノート他で情報共有をしている。又、家族アンケート結果も玄関に掲示しており、概ね満足の評価を得ている。コロナ禍で利用者との面会制限はあるが、家族の要望によりスマホでの面会や事業所での窓越し面会を実現した。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各自の意見を自由に記入できるノートを活用している。ミーティングを月に1回実施し、職員が意見を述べやすい環境を作っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加している。	毎月の職員会議、管理者他と年2回又は随時の個別面談、「意見ノート」等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職場での悩み等に対する支援体制を採っている。職員意見でコロナ禍、緊張を強いられる職場で業務遂行へのモチベーションの維持・向上のため休憩時間の確保に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回幹部と個々に面談をおこない意見交換の機会を設けている。努力・実績などを評価しやりがいが実感できる体制をとっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は他事業所との交流を実施していない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行っている。「かえで」内の見学は新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は行っていないが、不安や相談があれば電話にてこまめに連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の必要としている支援について話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズにあった対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため定期的に窓越しの面会を実施している。馴染みの人と電話でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。	現在はコロナ禍による面会制限下、医療連携を密にして事業所で窓越し面会をしたり、元々参加していたシルバーコーラスに引き続き参加する等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様にした例もあった。又、絵手紙を息子さんに出したり、贈り物のお礼の電話をする事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係は把握している。活動の参加や日常のくつろげる場所などの配慮をしている。お互いの関わり合いを見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には本人・家族の意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えるにくい利用者に対し日頃から言動の背景にある心理を理解する様に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入を行い、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。	利用者の習慣や好み等の基本情報をもとに、その後はその方に深く関わる中で「私の姿シート」に全職員が逐次書き込み、気づきを共有している。歌好きな利用者の生き甲斐探しで30分の音楽療法から90分のシルバーコーラスへの変容例や表出困難な方には表情・仕草の裏にある想いに沿った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間のケア記録を実施し利用者の過ごし方を、職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの介護職員全員で「私の姿シート」を記入し、ケアプランに反映させている。	利用者毎の担当職員が収集した情報を計画作成担当者が集約・立案し家族参加を基本とする担当者会議で検討して本案としている。毎月のモニタリング、3カ月を基本に計画を見直している。法人のリハビリ専門職と連携した生活機能向上や表出困難な方には「ひも解きシート」等も活用したプラン作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間のケア記録用紙を使用し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま記録に残している。必要時には「ひもときシート」をユニット介護職員で記入し、本人の想いをさぐりアセスメントに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望に応じ医師の指示にてリハビリセンターを利用している。趣味の継続のため、書道を行っている。また、音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科、精神科、歯科、皮膚科の医師による定期的な訪問診療、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に伝え、ケア記録に記録することで職員間で情報を共有している。	希望があればこれまでの主治医の継続も可能だが、全ての利用者は法人内の内科協力医等から月1回、協力歯科医から月2回の訪問診療を受けている。専門医の受診は職員による。総合施設内の事業所や診療所の看護師との24時間連携体制や非常勤専従の歯科衛生士の配置もあり、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	総合施設内の事業所や診療所の看護師と相談、連携が取れる体制を整えている。また、訪問看護ステーションと医療連携体制について契約を結んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院職員による情報交換や相談が行える体制が整っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化する場合は、家族の意向、医師の判断や事業所のできることを説明しながら方針を決めている。	要望があれば看取りを行なう方針である。入居時「重度化対応・看取りの指針」等を説明し了解を得ている。重度化した際は主治医・家族等で話し合い今後の方針を決め適切な支援を行っている。介護老人福祉施設への住み替えや入院により十分な医療支援に取り組む等、総合的・包括的な対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会の実施を行い、職員が災害時どう行動するかを話し合っている。	消防署の立ち会いも含め、総合施設全体で年2回、事業所独自で年1回の避難訓練を実施している。ハザードマップでは非該当地域だが、隣接の介護老人福祉施設・介護老人保健施設は地域の福祉避難所として位置付けられている。法人として災害に備えて備蓄倉庫に3日程度の食糧・飲料水等が整備されている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1棟 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉使いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングを行っている。申し送りや会話時には声の音量や場所に配慮している。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。各職種別に月間の接遇目標を設定し月末に各職員がその評価検証を行う。職員間で話しやすい雰囲気があり、気づきがあれば職員同士で声をかけあっている。又、利用者の作品展示の際も家族確認の下、下の名を使用する等、個人情報に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の行動は「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	「かえで」で収穫した野菜を使い利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。	昼夕食の献立は利用者のその日の要望と食材を勘案し、職員が仲立ちをして決めている。事業所の畑でできた野菜が食卓に上ることもある。利用者は配膳・洗い物やおはぎ作りで餅米のつぶし加減等、役割に応じた協力を行っている。又、食卓の高さや椅子への移乗等、個別性も考慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。嚥下困難な人にはS Tの評価を基に食形態の変更や増粘剤を使用している。本人の状態によっては個別に好みのものを提供し、体力の維持・回復に努めている。また、本人の体形や姿勢に応じ机や椅子を個別に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し、個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の支援が必要な利用者は、それぞれのサインや間隔をみながら誘っている。個々の状況に合わせオムツの種類や使い方を検討しできるだけ布のパンツで過ごせるように支援している。また、トイレの場所がよく分かるようにドアに表示をしたり、迷っている様子が見られれば速やかに案内している。	排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから布パンツへの移行や利用者の移乗能力に応じた介助方法等、その方の状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。又、夜間排泄時の転倒防止の為、赤外線離床センサーを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日常的に水分摂取に努め、寒天の使用や野菜摂取の工夫をしている。排便状況と本人の心身の関係に配慮しケアを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。	週3～4回の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴等に対応することもある。半埋め込み式家庭浴槽に出入りし易い位置に数本の手すりや入浴台等の環境整備の他、冬至の柚子湯も実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人が好まれる場所で休息したり、 個人の状態に合わせた休息時間と とれるよう支援している。就寝時 間も一人ひとりの時間に合わせた 声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	利用者に処方してある薬の記録は 一覧できるようにファイリングし ている。処方に変更があった時は 、心身の状態の観察と記録を行 い介護職員、医師、看護師との 連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。	役割ができて利用するには、継 続できるように支援し、意思の表 現が困難な利用者には日頃の言 動から好きな事に参加出来るよ うに支援している。また、入居 前に利用していたサービス（リ ハビリセンター）を引き続き利 用する事で人間関係や楽しみが 継続出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している。	現在、新型コロナウイルス感染 拡大防止の為外出の支援は行 えていない。気分転換に施設周 囲の散歩を行っている。	現在はコロナ禍による外出自 粛で事業所周囲の散歩で鯉に 餌やり等だが、本来は近隣へ の散歩・買い物や季節の外出 行事・公民館祭り等の地域行 事・R U N 伴（全国的なイベ ント）への参加等、普段は行 けないような場所で「非日常」 を楽しんだり、家族との外食 も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	お金の管理が困難な利用者 に対して職員が関わっている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけれるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。	季節の花や正月・七夕等、行事の飾り付けや歌集の歌詞等で季節の移ろいを感じられるよう配慮している。和室の掘り炬燵・襖等、懐かしい家具に加え、天窓からの採光や調理の匂い等で居心地の良い生活空間となっている。又、今般の感染症対策でテーブルの向き・間隔・座る人数や換気等にも万全を期している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前の面談時に、本人の好みのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。	居室は洗面台等が備え付け、ベッドは持ち込みとなっているが、畳の部屋もある。姿見他、使い慣れた物や抹茶セット一式等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者によってはベッドに替えてマットレスを敷いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目当ての場所が分かるように表札を設置している。中庭にベンチを置き花壇や菜園を作っている。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。		

V アウトカム項目(1棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目 (2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎日、始業前に理念を唱和し日々実践出来るように取り組んでいる。また、年度始めには、理念の中の言葉を深く掘り下げ、ユニット単位での目標をたてている。目標と、達成するための行動指針を各ユニットに掲示し、毎月モニタリングをしている。業務改善は「理念」を念頭において検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、利用者の地域行事への参加は見合わせている。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などの地域行事には職員のみで参加し地域と継続した関係を築けるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヵ月に1回の運営推進会議を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為書面会議とし資料を配布している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加を依頼している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の開催は見送っているが、会議資料を配布し「かえで」の運営や取り組みを伝えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要のある人には支援している。権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には説明を行い理解を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。現在新型コロナウイルス感染拡大防止の為面会の制限があるため、家族には月に1回以上連絡をとり本人の状態や要望を聞いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各自の意見を自由に記入できるノートを活用している。ミーティングを月に1回実施し、職員が意見を述べやすい環境を作っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回幹部と個々に面談をおこない意見交換の機会を設けている。努力・実績などを評価しやりがいが実感できる体制をとっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は他事業所との交流を実施していない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行っている。「かえで」内の見学は新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は行っていないが、不安や相談があれば電話にてこまめに連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の必要としている支援について話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズにあった対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため定期的に窓越しの面会を実施している。馴染みの人とビデオ通話でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。また、馴染みの人に本人への便りを依頼する等のお願いをしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係は把握している。活動の参加や日常のくつろげる場所などの配慮をしている。お互いに助け合い協力しながら作業が行えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には本人・家族の意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えにくい利用者に対し日頃から言動の背景にある心理を理解する様に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入を行い、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間のケア記録を実施し利用者の過ごし方を、職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの介護職員全員で「私の姿シート」を記入し、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間のケア記録用紙を使用し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま記録に残している。必要時には「ひもときシート」をユニット介護職員で記入し、本人の想いをさぐりアセスメントに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に対応するニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望に応じ医師の指示にてリハビリセンターを利用している。趣味の継続のため、生け花を行っている。また、音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科、精神科、歯科、皮膚科の医師による定期的な訪問診療、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に伝え、ケア記録に記録することで職員間で情報を共有している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	総合施設内の事業所や診療所の看護師と相談、連携が取れる体制を整えている。また、訪問看護ステーションと医療連携体制について契約を結んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院職員による情報交換や相談が行える体制が整っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化する場合は、家族の意向、医師の判断や事業所でできることを説明しながら方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会の実施を行い、職員が災害時どう行動するかを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2棟 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉使いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングを行っている。申し送りや会話時には声の音量や場所に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の行動は「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	「かえで」で収穫した野菜を使い利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。本人の摂取状況にあわせ個別に好みのものを提供し、体力の維持・回復に努めている。また、本人の体形や姿勢に応じ机や椅子を個別に準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の支援が必要な利用者は、それぞれのサインや間隔をみながら誘っている。個々の状況に合わせてオムツの種類や使い方を検討しできるだけ布のパンツで過ごせるように支援している。また、トイレの場所がよく分かるようにドアに表示をしたり、迷っている様子が見られれば速やかに案内している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日常的に水分摂取に努め、野菜摂取の工夫をしている。排便状況と本人の心身の関係に配慮しケアを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人が好まれる場所で休息したり、 個人の状態に合わせた休息時間と とれるよう支援している。就寝時 間も一人ひとりの時間に合わせた 声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	利用者に処方してある薬の記録は 一覧できるようにファイリングし ている。処方に変更があった時は 、心身の状態の観察と記録を行い 介護職員、医師、看護師との連 携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	役割ができている利用者には、継 続できるように支援し、意思の表 現が困難な利用者には日頃の言 動から好きな事に参加出来るよ うに支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。	現在、新型コロナウイルス感染 拡大防止の為外出の支援は行 えていない。気分転換に施設周 囲の散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	お金の管理が困難な利用者に対 して職員が関わっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけれるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前の面談時に、本人の好みのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目当ての場所が分かるように表札を設置している。中庭にベンチを置き花壇や菜園を作っている。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。		

V アウトカム項目(2棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」

作成日 令和2年12月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍において面会が制限される中、家族に入居者の様子を十分に伝える機会を増やしたい。	家族に入居者の様子を伝える機会を増やす。	個人の様子がわかるように写真とメッセージを家族に送る。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。